

教育長 様

校番 122 戸手 高等学校長
(全日制 課程)

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
研究指定校（STEAM型教育牽引校） 令和7年度実施報告書**

1 学校の教育目標等

<p>(1) 教育目標 「集う 学ぶ 拓く」(⇒学校に集い仲間と力を合わせながら、主体的に学び、自らの生きる道を切り拓く)</p> <p>(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力 ○育てたい生徒像 総合学科高校として、多様な学びを通じ、自らの道を切り拓き、変動する社会で活躍できる人材を育成する。 ア 主体的に学び、挑戦する生徒 イ 地域から学び、地域に貢献する生徒 ウ 自分と仲間を大切にする生徒 ○育成を目指す資質・能力 「基礎・基本に基づく幅広い教養、気付く力、解決に向けて思考する力、論理的に相手に伝える力、仲間と協働する力」</p> <p>(3) 学科等の特色 生徒一人一人の個性を大切にし、自分の進路をしっかりと見つめられるよう、多様な選択科目を設定し、“総合学科らしい総合学科”を目指して、生徒の個性や地域との連携を大切にしながら教育活動を進めている。幼小中高大連携の取組による18年間を見通した“地域の子ども”の育成に向けて、地元の教育力や保護者の協力体制が整っている。</p>
--

2 研究結果の概要 ※「令和7年度研究計画書」を参照して記入してください。

<p>(1) STEAM型カリキュラムの改善内容（仮説、検証方法及び検証結果） ア 研究仮説 地域と連携した企画・運営等の実際の活動において探究サイクルを2回まわすことで、多様な視点から課題や解決方法に気付き、教科横断的視点や資質・能力の育成が図られると考えられる。関わる地域の大人の姿が生徒たちの学びとなり、地域社会への関心の高まりとなってキャリア形成を意識した取組につながりやすいと考える。それをより推進する手立てとして、1年次から地域社会における自己の在り方・生き方を考える丁寧な学習が重要である。</p> <p>イ 検証方法 生徒質問紙、学校独自アンケート、単元や学期ごとの振り返りを基に、資質・能力の定着状況や教科横断的視点とキャリア形成への意識調査を行い、変化を見る。</p> <p>ウ 検証結果 3年次生を対象とした学校独自アンケート結果から、特に「総合的な探究の時間の学習を通して、将来の夢や目標が明確になってきた」の項目で今後の自己の生き方に影響を与える変化が見られた。</p>
--

エ 令和6年度までに開発したSTEAM型カリキュラムの改善内容

令和6年度までは、地域の方と関わりながら探究サイクルの実践を1回行っていたが、令和7年度は2回実施することを必須とした。1回目の活動を振り返り、検証する機会を設けたことで、当初立てた仮説や課題が実は本質的な課題ではなかったことなど、机上の学習だけでは分からない多くの気づきを得ることができた。こうした実体験を通して、課題についてより深く考察できるようになり、その経験を基に思考も実践も次のステップへと深化させることができた。また、図書室に可動式机を配置し、生徒間のグループ協議や地域の方との交流の際に活用するなど、図書室を探究活動の拠点として有効活用した。

(2) 生徒の変容

1年間の振り返りのアンケート結果からは、「講座を通して考えていく中で将来の目標を見つけることができた」など、自分のこれからについて考えるきっかけになったという意見が見られた。また、「企画から実行まで関わることで、課題発見力・調整力・行動力など、実践的なスキルが身に付いた」「地域の課題を知ることができ、自分たち高校生にもできることがあることを感じた」「地域の方と交流することで、学校の中では出てこない考えをもつことができた」「意見調整や役割分担の難しさ、時間・人手不足による準備不足などもあって難しかった」など、体験を通して多くの学びが得られたことも示されている。さらに、「自分で考えて意見を出したり話し合いをしたりすることで、他の授業でも自分の意見をしっかりとつことができるようになった」など、他教科の授業に取り組む際の生徒の姿勢にも良い影響が見られた。

3 学校実態調査結果（報告書作成時点のもの）

調査名	項目	結果
生徒質問紙調査	II (62) 68 「総合的な探究の時間の学習を通して、将来の夢や目標が明確になってきたと思います。」において、「よく当てはまる」と回答した生徒の割合	18%
	II (64) 70 「総合的な探究の時間の学習が、各教科での学びに役立っています。」において、「よく当てはまる」と回答した生徒の割合	6%
	II (73) 79 「自分は学校が育成を目指す資質・能力を身に付けていると思います。」において、「よく当てはまる」と回答した生徒の割合	11%
学校質問紙調査	I (7) 「各教科において、課題を発見し、解決する過程を通じた「主体的な学び」を全教員が実践している。」において、「ほとんどの教員が当てはまる（8割以上の教員が実践している）」と回答した教員の割合	100%
	I (8) 「総合的な探究の時間において、課題を発見し、解決する過程を通じた「主体的な学び」を全教員が実践している。」において、「ほとんどの教員が当てはまる（8割以上の教員が実践している）」と回答した教員の割合	100%
	III (24) 「生徒が「各教科ならではの物事を捉える視点や考え方（各教科における「見方・考え方」）」を組み合わせさせて働かせ、課題解決に取り組み、その中で得られた学びを教科・科目の学習に生かすことができるように、組織的に計画・実施している。」において、「1と2」又は「1と2と3」と回答した教員の割合 1 学年会議や総合的な探究の時間の担当者会議等で、生徒が複数の教科の「見方・考え方」を組み合わせさせて働かせることができるように、学習内容を計画し、実施している。 2 学年会議や総合的な探究の時間の担当者会議等で、総合的な探究の時間の学びを各教科・科目の学習に生かすことができるように、意見交換・情報共有等を行っている。 3 学年会議や総合的な探究の時間の担当者会議等で、生徒が複数の教科で学習した「知識や内容」を活用できるように、各教科の学習内容を共有している。 4 学年会議や総合的な探究の時間の担当者会議等で、生徒が複数の教科の「見方・考え方」を組み合わせさせて働かせたり、学習した「知識や内容」を活用したりできるような取組を行っていない。	0%
生徒実態調査	学校外での探究活動（発表会等も含む）に参加した生徒数	214人
	学校内外での探究活動の成果を自身の進路選択に活用した生徒数 (例) 学校推薦型選抜、総合型選抜を受験した生徒数 等	125人 (延べ人数)

学校独自アンケート等 (3年生対象)	「総合的な探究の時間の学習を通して、将来の夢や目標が明確になってきたと思います。」において、「よく当てはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合	よく41.5% やや33.3%
	「総合的な探究の時間の学習が、各教科での学びに役立っています。」において、「よく当てはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合	よく25.9% やや43.0%
	「自分は学校が育成を目指す資質・能力『幅広い知識・技能』を身に付けていると思います。」において、「よく当てはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合	よく46.7% やや48.0%
	「自分は学校が育成を目指す資質・能力『気付き力』を身に付けていると思います。」において、「よく当てはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合	よく53.3% やや37.0%
	「自分は学校が育成を目指す資質・能力『解決に向けて思考する力』を身に付けていると思います。」において、「よく当てはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合	よく46.7% やや43.0%
	「自分は学校が育成を目指す資質・能力『論理的に相手に伝える力』を身に付けていると思います。」において、「よく当てはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合	よく47.0% やや39.6%
	「自分は学校が育成を目指す資質・能力『仲間と協働する力』を身に付けていると思います。」において、「よく当てはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合	よく66.7% やや28.1%

4 令和7年度の研究成果及び課題 ※2年間の事業の経過を踏まえて記入してください。

(1) 成果（地域社会志向型モデルの明示）

・3年間の学びの成果を確認するため、学校独自アンケート（生徒質問紙と同じ質問・3年次生対象）を行った。その結果、「総合的な探究の時間の学習を通して、将来の夢や目標が明確になってきたと思う」に「よく当てはまる」と回答した生徒の割合は、令和6年度の23%から令和7年度は41.5%と倍近く増加した。また、「総合的な探究の時間の学習が、各教科での学びに役立っている」に「よく当てはまる」と回答した生徒の割合は、令和6年度の23%から令和7年度26%へと微増が見られたことから、実社会での体験型が有効であったと考えられる。

・本校におけるSTEAM型教育モデルは、「地域社会志向型」である。「STEAM教育（各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的な教育）」の視点を踏まえ、「実社会での探究学習」を基に策定した。全員が実際に地域と繋がる活動を通して、現実にある問題の発見・解決を体感するものとなっている。

(2) 課題

「総合的な探究の時間の学習が、各教科での学びに役立っている」に「よく当てはまる」と回答した生徒の割合は、令和6年度の23%から令和7年度の26%へと微増に留まった。このことから、総合的な探究の時間と各教科の学びが十分に連動しておらず、それぞれが無関係ではなく相互に学びを活かせる仕組みの改善が必要である。

5 令和8年度の目標及び取組内容

(1) 令和8年度の目標

地域社会と結び付いた「地域社会志向型STEAM教育」を学校文化として継続・定着させ、実社会の課題を主体的に発見・解決できる生徒の育成を目指す。そのために、地域での探究活動を通して教科の学びが実社会で活用できることを実感し、探究と他教科の見方・考え方のつながりを意識しながら意欲的に学びを深めようとする姿勢を育成する。また、各教科の授業にも「問いを立てる」「根拠を探す」「方法を工夫する」といった探究的な学習場面を取り入れ、教科と探究が相互に作用し合う学習環境の構築を図る。

ア アウトプット（活動指標）

- (ア)・地域社会における仕事や生活の実態について理解を深めるため、地域と交流する活動を必須とする。
 - ・職業に求められる姿勢や必要な能力について学ぶため、各分野の専門家と関わる機会を設ける。
 - ・学期ごとに学んだ内容を整理し、自らの将来の夢や目標を明確にして言語化する。
- (イ)・探究の計画・実行・評価・改善の各段階で、教科との関連を明確にする。
 - ・情報共有や振り返りを通して、探究が教科の学びに生かされている点を言語化する。

・教科と探究の往還を促すため、各教科の見方・考え方を意識した授業改善及び研修を全教員で実施する。

イ アウトカム（成果目標）

(ア) 生徒質問紙調査および学校独自アンケート調査の結果、「総合的な探究の時間の学習を通して、将来の夢や目標が明確になってきたと思います。」において、「よく当てはまる」「ややあてはまる」と回答した3年次生の割合が8割以上になっている。

(イ) 生徒質問紙調査および学校独自アンケート調査の結果、「総合的な探究の時間の学習が、各教科での学びに役立っています。」において、「よく当てはまる」「ややあてはまる」と回答した3年次生の割合が8割以上になっている。

(2) 令和8年度のカリキュラム改善の内容

相互授業観察や情報共有により教員間の連携を強化し、各教科においても問いの設定・根拠の収集・方法の工夫など探究的な視点を反映させ指導改善を図る。また、探究活動での定期的な振り返りを通して、成長を言語化させることで主体的な学習者を育成する。

6 令和7年度会計報告（見込みを含む）

対象	費目	金額（円）	積算基礎（円）
連絡協議会	旅費（出張旅費）	10,705	1 出張旅費 1人×2回=10,705
研究の推進	報償費（講師謝金など）	50,400	1 外部講師謝金 4人×4.5時間×2,800=50,400 ・府中商工会議所青年部 岩室様 ・府中商工会議所青年部 土井様 ・PTA 会長 原田様 ・PTA 副会長 宮本様
	旅費（講師旅費など）	2,320	1 外部講師旅費 4人分 ・新市駅～上戸手駅 300 ・目崎～戸手高校入口（バス）800 ・鶴飼駅～上戸手駅 380 ・連下～新市駅前（バス）、新市駅～上戸手駅 840
	需・他（研究に必要な物品購入費など）	200,000	図書（なぜ僕らは働くのか） 23,512 13歳のハローワークマップ 8,030 iPad 168,458
研修等での実践報告	旅費（STEAM型カリキュラム推進研修旅費）	29,985	1 第1回（6/6）2名分 7,420+10,755=18,175 2 第2回（11/12）1名分=1,820 3 第3回（12/9）1名分=9,990